

逗子市の環境

～逗子市環境基本計画 年次報告～

令和2年度版

(平成31(令和元)年度実績)

逗子市環境都市部環境都市課

．．．． は じ め に ．．．．

この報告書は、逗子市環境基本条例第 10 条に規定された「環境の状況及び環境基本計画に基づき実施された施策の状況等についての年次報告書」として、また、地球温暖化対策の推進に関する法律第 21 条第 10 項に規定された「地方公共団体実行計画に基づく措置及び施策の実施の状況」に位置付けられるもので、主に前年度の実績等を踏まえ作成し、公表するものです。

．．．． 目 次 ．．．．

| | |
|-----------------------|----|
| 1. 逗子市の概要について | 1 |
| 2. 逗子市の環境政策について | 2 |
| 3. 分野ごとの取組について | 4 |
| 3-1. 自然を大切にすまち | 4 |
| 3-2. 廃棄物による環境負荷の少ないまち | 22 |
| 3-3. 温室効果ガス排出の少ないまち | 28 |
| 3-4. 暮らしと景観に配慮したまち | 32 |
| 4. 市民活動の促進と推進体制について | 44 |
| 5. 環境マネジメントシステムについて | 47 |
| 6. 地球温暖化対策実行計画の推進について | 47 |

1. 逗子市の概要について

1-1. 地勢、人口などについて

逗子市は、総面積 17.28 平方キロメートル、人口 6 万人弱のコンパクトな規模で、古くから大規模な工場等のない住宅地として発展してきた経緯があり、逗子市内の住宅から市外、県外への通学、就労者が多いという特徴があります。

神奈川県南東部、三浦半島の入口に位置し、北は横浜市、北西は鎌倉市、南は葉山町、東は横須賀市に接し、西は相模湾に面しています。三方を山に囲まれているため他市町とはトンネルでつながり、中央部を東から西へと田越川が流れています。また、東西に JR 横須賀線、南北に京浜急行逗子線が走り、それぞれ区域を二分しています。

1-2. 土地利用の状況について

○市街化区域及び市街化調整区域（平成 28 年 11 月 1 日県告示第 508 号）

| 区分 | 都市計画区域 | | 計 |
|-----------|--------|---------|-------|
| | 市街化区域 | 市街化調整区域 | |
| 面積（ヘクタール） | 832 | 896 | 1,728 |

○用途地域指定状況（令和元年 9 月 19 日市告示第 132 号）

| 用地地域の種類 | 面積（ヘクタール） | 構成比（％） |
|---|-----------|--------|
| 住居系（第一種低層住居専用地域、第一種・第二種中高層住居専用地域、第一種・第二種住居地域） | 774 | 93.0 |
| 商業系（近隣商業地域、商業地域） | 56 | 6.7 |
| 工業系（準工業地域） | 1.9 | 0.3 |
| 合計 | 約 832 | 100 |

1-3. 気象状況について

平成 31（令和元）年中の平均気温、降雨量（「2020 消防年報(令和 2 年版)」より）

| 月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |
|---------|-------|------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 平均気温（℃） | 6.3 | 7.6 | 10.8 | 13.5 | 19.1 | 21.4 | |
| 降雨量（mm） | 16.5 | 35.5 | 89.5 | 97.0 | 131.0 | 214.5 | |
| 月 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 年間 |
| 平均気温（℃） | 23.8 | 27.7 | 24.9 | 19.6 | 13.6 | 9.5 | 16.5 |
| 降雨量（mm） | 160.5 | 74.0 | 232.5 | 349.0 | 85.0 | 96.0 | 1,581.0 |

2. 逗子市の環境政策について

逗子市の環境の保全及び創造に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、環境の保全及び創造に関する基本的な事項を定める計画である「第二次逗子市環境基本計画」において、次のように定めています。

「逗子市環境基本計画」では、逗子市の貴重な財産である自然環境と、そこに住む市民の生活環境を守るため、『自然と人間をともに大切にすまち』を基本的な考え方とします。

逗子市を取り巻く自然は、海や、市街地の三方を囲む丘陵の緑などが良好な状態で残されています。この豊かな自然は、市民の暮らしに潤いを与えてくれます。

わたしたちは、これからも、常に自然を守り、育み、地球に優しい持続可能な潤いのあるまちをつくり、自然と人間をともに大切にすまちの実現をめざして、この恵み豊かな環境を、次の世代へとつないでいきます。

この基本的な理念に基づいて、「自然を大切にすまち」「廃棄物による環境負荷が少ないまち」「温室効果ガス排出の少ないまち」「暮らしと景観に配慮したまち」の4つのまちづくりを進め、『だれもが安全に安心して暮らす、地球に優しい持続可能な循環型都市・逗子市』の実現を目指していきます。

(「第二次逗子市環境基本計画」 9 ページ抜粋)

この考えに基づき、年次報告書におきましても、4つの分野ごとに、事業の進捗を記載します。

また、「逗子市環境基本計画行動等指針」において、「第二次逗子市環境基本計画」を実現していくために位置付け、逗子市環境審議会にて、進行状況の評価を行っていくこととする事業を中心に作成しています。

環境基本計画行動等指針に位置付けている事業

| 分野 | | 事業名 | |
|--------------|--------------|--------------|---------------|
| 1. 自然を大切にすまち | (1) 緑 | ～緑地の保全～ | 緑化推進事業 |
| | | | 特別緑地保全地区指定事業 |
| | | | 歴史的風土保存地区指定事業 |
| | ～公園の整備・維持管理～ | 池子の森自然公園整備事業 | |
| 都市公園整備事業 | | | |

| | | | | |
|--------------------|---------------------|--------------------|--|---|
| | (2) 水辺 (河川・海) | ～海岸の維持管理～ | 公園・緑地アダプト推進事業 海浜美化推進事業 海水浴場運営事業 | |
| | | ～河川の維持管理～ | 河川維持管理事業 | |
| | | ～公共下水道の維持管理～ | 水洗化普及事業 | |
| | | (3) 動植物 (生物多様性) | ～様々な生態系の体験～ | 自然の回廊推進プロジェクト |
| | | ～環境学習～ | 環境パートナーシップ推進事業 | |
| | 2. 廃棄物による環境負荷の少ないまち | (1) 発生・排出抑制 | ～発生・排出抑制～ | 生ごみ減量化・資源化事業 家庭系ごみ排出抑制推進事業 |
| (2) 資源の再生利用～リサイクル～ | | | ～生ごみの資源化～ ～その他の廃棄物の資源化～ | 生ごみ減量化・資源化事業 (再掲) 生ごみ減量化・資源化事業 (再掲) 家庭系ごみ排出抑制推進事業 (再掲) 資源化品目拡大事業 |
| (3) 適正処理 | | ～適正処理～ | 一般廃棄物処理施設整備事業 | |
| 3. 温室効果ガス排出の少ないまち | | (1) 省エネルギーの推進 | ～省エネルギーの推進～ | 温室効果ガス削減事業 |
| | | (2) 再生可能エネルギーの利用促進 | ～再生可能エネルギーの利用促進～ | スマートエネルギー普及促進事業 温室効果ガス削減事業 (再掲) |
| 4. 暮らしと景観に配慮したまち | | (1) 良好な景観 | ～良好な景観～ | 景観のまちづくり推進事業 緑化推進事業 (再掲) |
| | (2) 暮らしのための基盤整備 | | ～暮らしのための基盤整備～ | やさしい道づくり事業 狭あい道路整備事業 急傾斜地崩壊対策事業 |
| | (3) 生活環境の諸問題 | ～生活環境の諸問題～ | 公害防止啓発事業 公害調査測定事業 歩行者と自転車のまち推進事業 | |

3. 分野ごとの取組について

3-1. 自然を大切にすまち

(1) 緑

【目標】 < 逗子市環境基本計画に定める 2022 年度（平成 34 年度）の目標 >

～緑地の保全～

- 市全域の緑被率約 60 パーセントを維持する。（緑政課・緑化推進事業）
- 特別緑地保全地区を 3 地区指定する。（緑政課・特別緑地保全地区指定事業）
- 名越切通周辺の歴史的風土保存区域内の重要な部分が、歴史的風土特別保存地区に指定されている。（緑政課・歴史的風土保存地区指定事業）

～公園の整備・維持管理～

- 池子の森自然公園を、生物多様性等に配慮しつつ、防災対策拠点的な性格を有する公園として整備する。（緑政課・池子の森自然公園整備事業*）
- 市民 1 人あたり都市公園面積が 10 m²（平方メートル）になる。（緑政課・都市公園整備事業）
- 公園において里親契約を結んでいる箇所数の割合が 50%以上になっている。（緑政課・公園・緑地アダプト推進事業）

*は逗子市総合計画に定めるリーディング事業です。

～緑地の保全～

【1】『緑化推進事業』

| | | | |
|---|---|---|-----|
| 事業名 | 緑化推進事業 | 所管名 | 緑政課 |
| 事業概要 | 目的：市街地の緑を増やし、みどり豊かでうるおいのある住環境を創出する。 対象：市民 手段：シンボルツリー・生垣用樹木の配布及び、壁面緑化工事費用の一部を助成する。 | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| ○樹木の配布 ・シンボルツリー・生垣用の樹木配布 ○壁面緑化工事費の一部助成 | | ○樹木の配布 ・シンボルツリー・生垣用の樹木配布 ○壁面緑化工事費の一部助成 | |
| 目標【2018（平成30）年度】 | | 現状【2014（平成26）年度末】 | |
| 市全域の緑被率約60%を維持する。 シンボルツリーの苗木配布数が累計30件になっている。 | | シンボルツリー 9件 | |
| 目標の達成状況 【2018（平成30）年度末】 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・市全域の緑被率60%は維持されている。 ・シンボルツリーの苗木配付数累計49件。 | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| 市全域の緑被率約 60%を維持する。 シンボルツリーの苗木配布数が累計 60 件になっている。 | | シンボルツリー 16件 累計 49 件 | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況 【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・シンボルツリー 1 件、生垣 3 件の配布を行い、2019年度末シンボルツリー苗木配布数は累計50件となった。 ・壁面緑化工事費の一部助成は財政対策プログラムにより休止を継続した。平成14年度から令和元年度までの申請は 6 件のみであり、平成26年度以降申請がないため、2019年度末をもって廃止した。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・市全域の緑被率60%は維持されている。 ・シンボルツリーの苗木配布数累計50件。（2019年度末） | |

【2】『特別緑地保全地区指定事業』

| | | | |
|--|---|--|-----|
| 事業名 | 特別緑地保全地区指定事業 | 所管名 | 緑政課 |
| 事業概要 | <p>目的：市街地を取り囲む緑豊かな樹林地を将来にわたり保全するため、樹林地を特別緑地保全地区に指定する。</p> <p>対象：山林所有者</p> <p>手段：特別緑地保全地区指定についての理解を求め、指定を行う。</p> | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| <p>○制度設計の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理協定や買い取り制度に向けた財源確保の検討 <p>○指定に向けた取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・候補地の精査と所有者への意向調査。 ・地権者同意 ・都市計画決定に向けた作業、図書作成 <p>○特別緑地保全地区の2地区目の指定</p> | | <p>○制度設計の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理協定や買い取り制度に向けた財源確保の検討 <p>○指定に向けた取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・候補地の精査と所有者への意向調査。 ・地権者同意 ・都市計画決定に向けた作業、図書作成 <p>○特別緑地保全地区の3地区目の指定</p> | |
| 目標【2018（平成30）年度】 | | 現状【2013（平成25）年度末】 | |
| 特別緑地保全地区を全2地区指定している。 | | 指定されていない。 | |
| 目標の達成状況【2018（平成30）年度末】 | | | |
| 特別緑地保全地区1地区指定。 | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| 特別緑地保全地区を全3地区指定している。 | | <p>緊急財政対策による事業休止となり、特別緑地保全地区指定に係る資料作成業務が実施できなかった。</p> <p>候補地4地区のうち、立地状況等を整理して2地区に候補地を絞った。</p> | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| 財政対策プログラムにより当分の間、買取りが見込まれる特別緑地保存地区指定は休止となったが、代替案として、特緑の候補地の寄付を受けることで、特緑指定と同等の効果が得られるかの検討を進めていくこととした。 | | 特別緑地保全地区1地区指定 | |

【3】『歴史的風土保存地区指定事業』

| | | | |
|--|--|---|-----|
| 事業名 | 歴史的風土保存地区指定事業 | 所管名 | 緑政課 |
| 事業概要 | <p>目的：歴史上意義を有する遺跡等と周囲の自然環境を一体的に保存するため、名越切通周辺の歴史的風土保存区域の枢要な部分を歴史的風土特別保存区域に指定する。</p> <p>対象：県、土地所有者</p> <p>手段：歴史的風土保存区域についての理解を求め、特別地区の指定を行う。</p> | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| <p>○指定に向けた取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県及び鎌倉市と調整を図る。 | | <p>○指定に向けた取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県及び鎌倉市と調整を図る。 ・土地所有者と調整を図る。 | |
| 目標【2018（平成30）年度】 | | 現状【2014（平成26）年度末】 | |
| 名越切通周辺の歴史的風土保存区域内の枢要な部分が、歴史的風土特別保存地区に指定されている。 | | 指定されていない。 | |
| 目標の達成状況【2018（平成30）年度末】 | | | |
| 調整は図っているが、指定に向けた動きはできていない。 | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| 名越切通周辺の歴史的風土保存区域内の枢要な部分が、歴史的風土特別保存地区に指定されている。 | | 県及び鎌倉市との調整の中で進捗状況が遅れている。 | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| <p>・進捗はなかったが、県及び鎌倉市との調整を引き続き行っている。（特別地区への指定は県が行うものであり、県及び鎌倉市との調整が必要となる）</p> | | 調整は図っているが、指定に向けた動きはできていない。 | |

～公園の整備・維持管理～

【1】『池子の森自然公園整備事業』（リーディング事業）

| | | | |
|--|--|---|-----|
| 事業名 | 池子の森自然公園整備事業 | 所管名 | 緑政課 |
| 事業概要 | <p>目的：池子の森自然公園基本計画に基づき、安全で快適な都市公園として整備を図る。</p> <p>対象：公園利用者</p> <p>手段：各公園施設の実施設計をし、公園施設を整備する。</p> | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| <p>○開園に向けた整備*</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メインエントランス、トイレ、駐輪駐車場、ドッグラン等の整備 ○アーチェリー場の整備（文化スポーツ課） ○子ども遊び広場、プレイリーダー詰所、野外活動施設等の整備（児童青少年課） ○文化財展示収蔵施設新築工事（社会教育課） | | / | |
| 目標【2018（平成30）年度】 | | 現状【2013（平成25）年度末】 | |
| 池子の森自然公園の整備が完了している。 | | 基本計画を策定した | |
| 目標の達成状況【2018（平成30）年度末】 | | | |
| 一部の整備工事について、国と米軍による日米合同委員会の承認が必要となり、工事の工期に見通しがたたなかった。 | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| 池子の森自然公園の整備が完了している。 | | メインエントランス、トイレ、駐輪駐車場、子ども遊び広場等の整備を行った | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| 2018（平成30）年目標は達成しておらず、2019（令和元）年度の進捗は無かった。しかしながら、2018年度にみどり審議会から「自然公園の保全・運営に関して市民や専門家を巻き込んで活動されていることは重要であり、評価できる。また、施設の整備が | | 整備は完了していない。（一部の整備工事について、国と米軍による日米合同委員会の承認が必要となり、工事の工期に見通しがたたなかった） | |

| | |
|---|--|
| 進むことが評価される場所ではなく、自然環境と共存するシステムの構築が最重要である。」との意見があったように、整備面ではなく、市民や専門家による自然環境の啓発イベントや維持管理の手法を策定する等の取り組みを行うことができた。 | |
|---|--|

※2015年（平成27年）2月1日から池子の森自然公園のスポーツエリアを開園。

【2】『都市公園整備事業』

| | | | |
|--|---|--------------------------------|-----|
| 事業名 | 都市公園整備事業 | 所管名 | 緑政課 |
| 事業概要 | <p>目的：安全で快適な都市公園としての整備を図る。 対象：公園利用者 手段：各公園施設の実施設計を行い、公園施設を整備する。</p> | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| 適正な維持管理を実施していく | | 適正な維持管理を実施していく | |
| 目標【2018（平成30）年度】 | | 現状【2014（平成26）年度末】 | |
| 市民一人あたり都市公園面積が10平方メートルになる。 | | 15.56平方メートル | |
| 目標の達成状況【2018（平成30）年度末】 | | | |
| 市民一人あたり都市公園面積15.56平方メートル。 | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| 市民一人あたり都市公園面積が10平方メートルになる。 | | 15.82平方メートル | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況 【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| 平成26年度末に池子の森自然公園の共同使用により目標を達成し、平成27年度以降は各公園の適正な維持管理を実施している。 <ul style="list-style-type: none"> ・第一運動公園維持管理事業 ・披露山公園維持管理事業 ・近隣公園維持管理事業 ・街区公園維持管理事業 ・池子の森自然公園維持管理事業 ・蘆花記念公園維持管理事業 | | 市民一人あたり都市公園面積15.56平方メートル。 | |

◎逗子市環境基本計画の目標設定時点（2013年（平成25年度末））では、8.72平方メートルであった。

【3】『公園・緑地アダプト推進事業』

| | | | |
|---|--|---|-----|
| 事業名 | 公園・緑地アダプト推進事業 | 所管名 | 緑政課 |
| 事業概要 | 目的：公園及び緑地において、市民協働による適正な維持管理を行う。 対象：市民 手段：里親契約を結ぶ。 | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| ○アダプト活動の積極的な推進を行う。 | | ○アダプト活動の積極的な推進を行う。 | |
| 目標【2018（平成30）年度】 | | 現状【2014（平成26）年度末】 | |
| ○公園において里親契約を結んでいる箇所数の割合が50%以上になっている。 | | ○公園アダプト 32.5%（83箇所中27箇所） ○緑地アダプト 25箇所 | |
| 目標の達成状況【2017（平成29）年度末】 | | | |
| ○公園アダプト 83箇所中40箇所（48.2%） ○緑地アダプト 28箇所 ○ハイキングコースアダプト 1箇所 | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| ○公園において里親契約を結んでいる箇所数の割合が50%以上になっている。 | | ○公園アダプト 83箇所中 36箇所（43.4%） ○緑地アダプト 28箇所 ○ハイキングコースアダプト 1箇所（新規） | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| 公園アダプトは新規3公園、4団体とアダプト合意書を結び、49.4%（83箇所中41箇所）となった。 緑地アダプトは新規1箇所、1団体とアダプト合意書を結び、30箇所17団体となった。 ・アダプト団体へ清掃や草刈等にかかる消耗品を提供した。 | | 公園アダプト49.4%（83箇所中41箇所）（2019年度末） | |

(2) 水辺（河川・海）

【目標】 <逗子市環境基本計画に定める2022年度（平成34年度）の目標>

～海岸の維持管理～

- アダプトプログラムによる海岸一斉清掃の参加者が年1,800人になっている。（経済観光課・逗子海岸保全活用事業*）
- 現在の砂浜面積を維持するため、毎年500m³以上の養浜対策を実施要請していく。（経済観光課・逗子海岸保全活用事業*）

～河川の維持管理～

- 河川の親水施設を4箇所整備する。（都市整備課・河川維持管理事業）
- アダプトプログラムによる河川管理の箇所数が4か所を維持している。（都市整備課・河川維持管理事業）

～公共下水道の維持管理～

- 水洗化率が98%になっている。（下水道課・水洗化普及事業）

*は逗子市総合計画に定めるリーディング事業です。

～海岸の維持管理～

【1】『逗子海岸保全活用事業』（リーディング事業）

| 事業名 | 逗子海岸保全活用事業 | 所管名 | 経済観光課 |
|------|---|---------------------------|-------|
| 事業概要 | 目的：逗子海岸のあり方や保全・活用方法を検討し、ファミリービーチとして安全で快適に利用できる海岸をつくる。 対象：市民、海岸利用者、海水浴客、観光客 手段：海岸の美化（啓発、アダプトプログラムの推進、清掃等）、海水浴場の開設・運営、海浜公衆トイレの維持管理、海水浴場のあり方の検討と改善策の実施 | | |
| | 主な事業内容 | | |
| | 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| | ○海水浴場のあり方の検討と改善策の実施 | ○海水浴場のあり方の検討と改善策の実施 | |
| | ○海岸の美化 | ○海岸の美化 | |
| | ○海水浴場の開設・運営 | ○海水浴場の開設・運営 | |
| | ○海浜公衆トイレの維持管理 | ○海浜公衆トイレの維持管理 | |

| | |
|---|-------------------------------------|
| 目標【2018（平成30）年度】 | 現状【2014（平成26）年度末】 |
| 逗子海岸が安全で快適なファミリービーチとして維持されており、海水浴客数が30万人を超えている。 | 201,300人 |
| 目標の達成状況【2018（平成30）年度末】 | |
| 2018（平成30）年度の海水浴客数 364,000人 | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | 現状【2017（平成29）年度末】 |
| 逗子海岸が安全で快適なファミリービーチとして維持されており、海水浴客数が40万人を超えている。 | 294,300人 (2016（平成28）年度は329,100人) |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | 目標の達成状況 【2019（平成31・令和元）年度末】 |
| <p>○逗子海水浴場の運営に関する検討会を5回実施した。海水浴場開設前は逗子海水浴場事業者・利用者ルールの見直しを行い、海水浴場終了後には意見交換を行い、報告書を作成して市長へ提出した。</p> <p>○かながわ海岸美化財団による海岸清掃を103日実施した。逗子ビーチクリーン隊との逗子海岸一斉清掃を11回実施した。</p> <p>○海水浴場を6月28日から9月1日まで66日間開設した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間中はマナーアップ警備員による注意・啓発を行った。 ・年間を通じて海水浴場活性化イベントを実施した。参加者は6,7月実施分57人、7,8月実施分240人、11月実施分69人（3月中止） <p>○海浜公衆トイレ3か所の清掃を1か所につき246回実施して清潔に保つとともに、修繕を実施した。</p> | 2019（令和元）年度の海水浴客数 334,800人 |

◎環境基本計画における目標及び実績内容は、次のとおりです。

| 目標 | 平成31（令和元）の実績内容 | 目標の達成状況 【2019（平成31・令和元）年度末】 |
|--|--|---|
| <p>○アダプトプログラムによる海岸一斉清掃の参加者が年1,800人になっている。 (2013年：1,440人参加)</p> <p>○現在の砂浜面積を維持するため、毎年500立方メートル以上の</p> | <p>○海岸一斉清掃を11回実施した。</p> <p>○神奈川県に対し、養浜対策を実施要請した。</p> | <p>○参加者数 年1,480人</p> <p>○投入量 年500立方メートル</p> |

| | | |
|---------------------------------------|--|--|
| 養浜対策を実施要請していく。 (2013年：500立方メートル投入) | | |
|---------------------------------------|--|--|

～河川の維持管理～

【1】『河川維持管理事業』

| | | | |
|---|---|--|-------|
| 事業名 | 河川維持管理事業 | 所管名 | 都市整備課 |
| 事業概要 | <p>目的：周辺緑化や生態系の再生を意識した河川の整備・管理手法を推進し、多様な命を育む川とするとともに、遊歩道の舗装やベンチの設置等を通じて、誰もが楽しめる親水施設を整備し、水辺の環境を保全していくため、アダプト制度や市民、事業者との協働による一斉清掃等を通じて良好な水辺を継承していくこと。</p> <p>対象：河川</p> <p>手段：親水施設を整備することについて、要望・調査・検討を行う。</p> | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| <p>○親水施設等の設置の取り組み</p> <p>・県に対し、二級河川部分への親水施設等の設置要望</p> <p>○アダプト活動や清掃イベントの開催</p> | | <p>○親水施設等の設置の取り組み</p> <p>・県に対し、二級河川部分への親水施設等の設置要望</p> <p>○アダプト活動や清掃イベントの開催</p> | |
| 目標【2018（平成30）年度】 | | 現状【2014（平成26）年度末】 | |
| <p>河川の親水施設を4箇所整備する。</p> <p>アダプトプログラムによる河川管理の箇所数が4箇所を維持している。</p> | | <p>親水施設3箇所</p> <p>アダプト4箇所</p> | |
| 目標の達成状況【2018（平成30）年度末】 | | | |
| <p>○親水施設3箇所（下田橋右岸、東橋、愛観橋）</p> <p>○アダプト4箇所（内2箇所はアダプト団体が活動休止中）</p> | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| <p>河川の親水施設を4箇所整備する。</p> <p>アダプトプログラムによる河川管理の箇所数が4箇所を維持している。</p> | | <p>親水施設3箇所</p> <p>アダプト4箇所</p> <p>（内2箇所はアダプト団体が活動休止中）</p> | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| <p>○県管理の二級河川部分への親水施設等の設置について、進捗状況を把握した。</p> <p>・令和元年10月23日（水）工事説明会を開催（工事が遅れている理由として、予算措置と京浜急行との調整であると神奈川県が説明した）</p> | | <p>○親水施設 3箇所</p> <p>（下田橋右岸、東橋、愛観橋）</p> <p>○アダプト 4箇所</p> <p>（内2箇所はアダプト団体</p> | |

| | |
|--|---------------|
| <p>○アダプトによる河川清掃活動が実施された。(1回/年：清掃イベント除く)</p> <p>清掃イベントについては、市の共催事業として、令和元年6月2日に「田越川・久木川一斉清掃」を実施した。</p> <p>(参加人数：225人)</p> | <p>活動休止中)</p> |
|--|---------------|

～公共下水道の維持管理～

【1】『水洗化普及事業』

| | | | |
|--|--|---|------|
| 事業名 | 水洗化普及事業 | 所管名 | 下水道課 |
| 事業概要 | 目的：くみ取り便所、浄化槽を廃止し、水洗化していくことで水辺の環境や水質の保全を図る。 対象：公共下水道 手段：水洗化工事について理解を求める。 | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| ○公共下水道への接続促進 ・融資のあっせん、助成制度の周知方法の検討 | | ○公共下水道への接続促進 ・融資のあっせん、助成制度の周知方法の検討 | |
| 目標【2018（平成30）年度】 | | 現状【2014（平成26）年度末】 | |
| 水洗化率が98%になっている。 | | 97.8% | |
| 目標の達成状況【2018（平成30）年度末】 | | | |
| 98.7% | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| 水洗化率が98%になっている。 | | 98.4% | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| 公共下水道への接続促進として、未水洗（未接続）家屋の現状を把握するためにアンケートや電話での聞き取りを行い、必要な家屋には個別に接続状況調査を実施した。また、現地調査実施時には、未水洗家屋の水洗化について理解を求めるとともに、改造費用に対する融資あっせんや利子補給の助成制度について説明した。 ＊未水洗戸数 2018年度末：223戸 ⇒ 2019年度末：214戸 | | 目標は、達成しているものの、大きな進展は見込めない。昨年度と同様に98.7%に留まる。今後も同様に推移すると思われる。 | |

(3) 動植物（生物多様性）

【目標】 <逗子市環境基本計画に定める 2022 年度（平成 34 年度）の目標>

～様々な生態系の体験～

○「自然の回廊プロジェクト」において、道標や説明板の設置済みコースが 100 パーセントになっている。（経済観光課・自然の回廊プロジェクト推進事業*）

～環境学習～

○市民団体による自然体験学習の参加者が年に約 200 人になる。（環境都市課・環境パートナーシップ推進事業）

○市民団体等により実施する出前授業が各学校にて行われる。（環境都市課・環境パートナーシップ推進事業）

*は逗子市総合計画に定めるリーディング事業です。

～様々な生態系の体験～

【1】『自然の回廊プロジェクト推進事業』（リーディング事業）

| | | | |
|--|---|---|-------|
| 事業名 | 自然の回廊プロジェクト推進事業 | 所管名 | 経済観光課 |
| 事業概要 | <p>目的：市民や逗子を訪れた人々が安らぎ、遊び、憩える場所となるように、逗子全体を自然の回廊として整備することにより、逗子の魅力を高め、多くの人々に認知、活用されるようにする。</p> <p>対象：市民、来訪者</p> <p>手段：市内の史跡や文化を伝えるポイント（拠点）に、誰が見ても見やすく、そして、知的興味が得られるような案内板を設置する。ハイキングコースを中心に、安全に歩けるように道標やマップなどの設置整備を進める。また、簡易ベンチなどの環境整備を進める。自然回廊マップや冊子による紹介を進め、回廊ウォーキングラリーなどの啓発イベントを開催する。</p> | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○案内板等の設置 ○自然の回廊マップの作成 ○市民協働によるイベントの実施 | | <ul style="list-style-type: none"> ○案内板等の設置、維持管理の実施 ○自然の回廊マップの作成 ○市民協働によるイベントの実施 ○各課の事業との連携 | |
| 目標【2018年（平成30年）度】 | | 現状【2013（平成25）年度末】 | |
| ・自然の回廊マップが作成されている。 | | 作成されていない。 | |
| 目標の達成状況【2018（平成30）年度末】 | | | |
| 自然の回廊マップが作成されている。（2014（平成26）年度に作成、2016（平成28）年度に改訂） | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| ・道標や説明板の設置済みコースが100パーセントになっている | | 自然の回廊マップが作成されている* すべてのコースへの設置ができていない。 | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○緊急財政対策により、案内板設置工事及び回廊マップ増刷に係る経費を予算化しなかった。 ○2018年度に作成した全体マップを補完する個別の回廊ご | | 案内板の作製、自然の回廊マップの増刷には至らなかったが、代替として個別 | |

| | |
|--|---|
| <p>とのマップをホームページに掲載し、広く周知した。(随時最新情報に更新した。)</p> <p>○国保健康課と協働で「未病×自然の回廊ウォーキング～田越川・逗子海岸回廊」を実施した。</p> <p>参加者24人(男性11、女性13)</p> <p>○回廊コースや見どころを紹介する「逗子自然の回廊展」を初開催した。</p> | <p>の回廊ごとのマップの作成や、今回初となる「逗子自然の回廊展」を開催することで、自然の回廊を広く周知することができた。</p> |
|--|---|

※(2014年度(平成26年度)に作成、2016年度(平成28年度)に改訂)

～環境学習～

【1】『環境パートナーシップ推進事業』

| | | | |
|--|---|--|-------|
| 事業名 | 環境パートナーシップ推進事業 | 所管名 | 環境都市課 |
| 事業概要 | <p>目的：逗子市環境基本計画・行動等指針の推進、計画目標の実現のために、市民、事業者、市が主体的に、又は協働による具体的な行動を実行する。また、次世代を担う子どもたちに自然環境を保全することへの関心を高める。</p> <p>対象：市民、事業者</p> <p>手段：逗子市環境基本計画・行動等指針などに基づく施策の実践、活動支援を行うため、意識啓発イベント、自然観察会。</p> | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○かんきょう連続講演会の実施 ○環境月間イベントの開催 ○出前授業の講師派遣 ○自然観察会開催 | | <ul style="list-style-type: none"> ○かんきょう連続講演会の実施 ○環境月間イベントの開催 ○出前授業の講師派遣 ○自然観察会開催 | |
| 目標【2018年（平成30）年度】 | | 現状【2014（平成26）年度末】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○市民団体による自然体験学習の参加者が年に約150人になる。 ○市民団体等により実施する出前授業が各学校にて行われる。 | | <ul style="list-style-type: none"> ○約100人 ○340人（累計） | |
| 目標の達成状況【2018（平成30）年度末】 | | | |
| 目標を達成している。 | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○市民団体による自然体験学習の参加者が年に約200人になる。 ○市民団体等により実施する出前授業が各学校にて行われる。 | | <ul style="list-style-type: none"> ○158人 ○出前授業の講師派遣（7回）実施 3校、参加者数約660人 | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○環境月間のイベント開催 環境フェスティバルは6月1日及び8～9日 展示は6月3日～9日 ○出前授業の講師派遣（7回） | | <p>自然体験学習参加者は、雨天等による中止もあり、目標を達成できなかった。</p> <p>出前授業は各校で行われ</p> | |

| | |
|---|-----------|
| <p>小中学校：3校 参加者数359人 教員向け講習：1回 (新型コロナウイルスの影響により、1回分中止)</p> <p>○自然観察会開催（3回） 参加者数107人（雨天等により 2回分中止）</p> <p>○かんきょう講演会開催（1回） 参加者数36人</p> | <p>た。</p> |
|---|-----------|

3-2.廃棄物による環境負荷の少ないまち

(1) 発生・排出抑制 ～リデュース、リユース～

【目標】 <逗子市環境基本計画に定める2022年度（平成34年度）の目標>

～発生・排出抑制～

○市民一人ひとりのごみ排出量が1日当たり700グラム以下になっている。（資源循環課・生ごみ減量化・資源化事業*）

○生ごみ処理容器の年間助成台数が500台になっている。（資源循環課・生ごみ減量化・資源化事業*）

*は逗子市総合計画に定めるリーディング事業です。

～発生・排出抑制～

【1】『生ごみ減量化・資源化事業』（リーディング事業）

| 事業名 | 生ごみ減量化・資源化事業 | 所管名 | 資源循環課 |
|--|--|---|-------|
| 事業概要 | <p>目的：本市の一般廃棄物の処理を安定的かつ適正に行うこと。また、本市に適合する生ごみ処理システムの確立を図り、最終的には生ごみ全量の焼却しない処理をめざす。</p> <p>対象：市民等</p> <p>手段：市民団体や事業者との連携により、家庭用生ごみ処理容器等の購入助成の普及拡大を図る。計画的に生ごみ一括処理施設の整備を行う。</p> | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| <p>○生ごみ処理容器等購入助成事業</p> <p>○生ごみ一括処理施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設整備方針の決定 ・施設整備 | | <p>○生ごみ処理容器等購入助成事業</p> <p>○生ごみ一括処理施設の稼働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生ごみの分別収集 | |
| 目標【2018年（平成30年）度】 | | 現状【2013年（平成25年）度末】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・生ごみの全量資源化に向けた適正規模の施設整備に着手している。 ・家庭用生ごみ処理容器等の購入助成について、年間助成台数が500台以上である。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・施設整備に向けて検討中。 ・295台 | |

| 目標の達成状況 【2018（平成30）年度末】 | |
|--|---|
| <p>目標を達成していない。（家庭用生ごみ処理容器等について、2018年度は休止中のため助成実績はないが、事業内容を見直し、非電動式のみを対象として2019年度から再開することができた。生ごみ資源化施設の整備については、逗子市単独ではなく広域での効率的な処理を検討する方針となったため）</p> | |
| 目標 【2022（平成34）年度】 | 現状 【2017（平成29）年度末】 |
| <p>家庭用生ごみ処理容器の普及と生ごみ一括処理施設の稼働により、生ごみ（資源化できない一部の生ごみを除く）が資源化されている。</p> | <p>・施設整備に向けて検討中。 ・180台 （累計件数 7,561 台）</p> |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | 目標の達成状況 【2019（平成31・令和元）年度末】 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・家庭用生ごみ処理容器等購入費助成事業は45件（累計件数 7,606件、普及率30.9%） ・鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化実施計画の素案を作成・公表し、鎌倉市及び葉山町に生ごみ資源化施設を整備し、逗子市の生ごみについては葉山町の施設で共同処理を行う方針を示した。 | <p>生ごみの資源化に向けて、葉山町との共同処理の方向性を示した。（生ごみ資源化施設については、逗子市単独ではなく広域での効率的な処理を行う方針となった）</p> |

(2) 資源の再生利用 ～リサイクル～

【目標】 < 逗子市環境基本計画に定める 2022 年度（平成 34 年度）の目標 >

～生ごみの資源化～

○生ごみ処理容器の年間助成台数が 500 台になっている。(資源循環課・生ごみ減量化・資源化事業*)

～その他の廃棄物の資源化～

○ごみの資源化率が 60 パーセント以上になっている。(資源循環課・生ごみ減量化・資源化事業、一般廃棄物処理施設整備事業*)

○燃やすごみに混入される紙ごみの割合が 10 パーセント以下になっている。(資源循環課・生ごみ減量化・資源化事業*)

○地域の 5 箇所すべて、まだ使用できる不用品(資源物)の回収等が行われている。(資源循環課・資源再利用推進事業)

*は逗子市総合計画に定めるリーディング事業です。

～生ごみの資源化～

【1】★リーディング事業

『生ごみ減量化・資源化事業』

◎内容は、「Ⅱ. 廃棄物による環境負荷の少ないまち (1) 発生・排出抑制 ～発生・排出抑制～」に記載する「生ごみ減量化・資源化事業」と同一

～その他の廃棄物の資源化～

【1】『資源再利用推進事業』

| | | | |
|--|---|--|-------|
| 事業名 | 資源再利用推進事業 | 所管名 | 資源循環課 |
| 事業概要 | <p>目的：ごみを燃やさない、埋め立てないゼロ・ウェイストを目指すとともに、最終処分場のさらなる延命化に寄与する資源化促進として、市民自らが資源物の持ち込み、持ち帰りを行うことで廃棄物の削減を目指す。</p> <p>対象：市民</p> <p>手段：市民が、いつでも資源物の持ち込み、持ち帰りが可能な場所の設置。</p> | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| ○利用者の利便性を考慮し設置。 | | ○利用者の利便性を考慮した場所の設置と廃棄物を減量するための有効な資源物の品目の拡大。 | |
| 目標【2018（平成30）年度】 | | 現状【2014（平成26）年度末】 | |
| 現在の3箇所（逗子・沼間・小坪）に加え2箇所（池子・久木）に拡大して設置。（計5箇所に設置） | | 3箇所に設置。（逗子・沼間・小坪） | |
| 目標の達成状況 | | | |
| 【2018（平成30）年度末】 | | | |
| 概ね達成（池子地区については、拠点として活用できる場所の確保が困難であった） | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| 現在の3箇所（逗子・沼間・小坪）に加え2箇所（池子・久木）に拡大して設置。（計5箇所に設置） | | 5箇所に設置。（逗子・沼間・小坪・久木2箇所）※ | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況 | |
| | | 【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・4地区4箇所（逗子・沼間・小坪・久木）において合計255日開催。来場者数計27,421人、持込件数8,259件、持帰り件数13,238件（持帰り重量計16,159kg） ・逗子文化プラザ市民交流センターにおける、常設での設置は2020年2月末を以て終了し、同年3月末で本市との協働事業としての運営は終了となった。今後は市民団体への後援等により、開催をしていく。 | | 池子地区へは拡大できていないが、逗子・沼間・小坪・久木2箇所の5箇所へ設置を拡大しており、概ね達成している。（池子地区については、拠点として活用できる場所の確保が困難であった） | |

※合計288日開催。来場者数計36,691人、持込件数15,682件、持帰り件数18,562件（持帰り重量21,048kg）

(3) 適正処理

【目標】 < 逗子市環境基本計画に定める 2022 年度（平成 34 年度）の目標 >

～適正処理～

- 一般廃棄物処理施設再整備が完了している。（資源循環課・一般廃棄物処理施設整備事業*）

*は逗子市総合計画に定めるリーディング事業です。

～適正処理～

【1】『一般廃棄物処理施設整備事業』（リーディング事業）

| 事業名 | 一般廃棄物処理施設整備事業 | 所管名 | 資源循環課 |
|---|--|---|-------|
| 事業概要 | 目的：将来に向けて安全・安心で持続可能な廃棄物処理システムの確立を図る。 対象：一般廃棄物処理施設 手段：環境クリーンセンターの焼却施設などのごみ処理関連施設全体の中長期的整備計画を策定し、再整備を行う。 | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| ○ごみ処理施設整備基本構想の検討 ○資源化施設基本設計等 ・生活環境影響調査 ○資源化施設建設工事 | | ○資源化施設建設工事 ○焼却施設基幹改良工事 ○浄化センター整備の検討 | |
| 目標【2018年（平成30）年度】 | | 現状【2013年（平成25）年度末】 | |
| 一般廃棄物処理施設整備計画が策定され、一部着手されている。 | | 再整備の方向性を検討中 | |
| 目標の達成状況 【2018（平成30）年度末】 | | | |
| 目標を達成していない。（逗子市単独ではなく広域での効率的な処理を検討する方針となったため） | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| 一般廃棄物処理施設再整備が完了している。 | | 目標を達成していない。 2市1町※において広域での施設整備の検討を進める。 | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況 【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| ・鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化検討協議会 2回開催 ・地方自治法の事務委託により、2020年度からの葉山町の容器 | | 目標を達成していない。（逗子市単独ではなく広域での | |

| | |
|---|-----------------------------|
| <p>包装プラスチック共同処理に向け、本市において容器包装プラスチック処理施設の整備を行なった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化実施計画の素案を作成・公表し、鎌倉市及び葉山町との共同処理施設整備などの連携方法の方向性を示した。 | <p>効率的な処理を検討する方針となったため)</p> |
|---|-----------------------------|

※鎌倉市、逗子市、葉山町

3-3.温室効果ガス排出の少ないまち

(1) 省エネルギーの推進

【目標】 < 逗子市環境基本計画に定める 2022 年度（平成 34 年度）の目標 >

～省エネルギーの推進～

- 市関連施設について、平成 25 年度を基準年度とし、平成 33 年度までに「第二次逗子市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」の温室効果ガス排出量削減目標を達成する。（環境都市課・温室効果ガス削減事業*）
- 市全体について、温室効果ガス排出量の削減目標の検討に取り組む。（環境都市課・温室効果ガス削減事業*）

*は逗子市総合計画に定めるリーディング事業です。

～省エネルギーの推進～

【1】『スマートエネルギー普及促進事業』（リーディング事業）

| | | | |
|--|--|--|-------|
| 事業名 | スマートエネルギー普及促進事業 | 所管名 | 環境都市課 |
| 事業概要 | <p>目的：「第二次逗子市環境基本計画」に基づき、温室効果ガス排出量削減に向けた取り組みを進める。</p> <p>対象：市民等</p> <p>手段：省エネルギー型設備、再生可能エネルギー設備等の温室効果ガス排出量の少ない設備の導入に係る費用に対し補助金を交付する。</p> | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| <p>○住宅用スマートエネルギー設備導入費補助金制度の運用</p> <p>○新たなスマートエネルギー設備等導入支援に係る検討</p> <p>○新たなスマートエネルギー設備等導入支援に係る補助金制度運用</p> | | <p>○新たなスマートエネルギー設備等導入支援に係る補助金制度運用</p> | |
| 目標【2018年（平成30年）度】 | | 現状【2013年（平成25年）度末】 | |
| 「第二次逗子市環境基本計画」に基づく新たなスマートエネルギー設備等導入支援の補助金制度が運用されている。 | | 計画を策定していない | |
| 目標の達成状況【2018（平成30）年度末】 | | | |
| 新たな補助金制度を導入できなかった。平成30年度に既存の補助金の運用が休止となったため、スマートエネルギー設備等の導入促進に係る普及啓発を実施することとした。 | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| 「第二次逗子市環境基本計画」に基づく新たなスマートエネルギー設備等導入支援の補助金制度の利用件数が目標を達成している。 | | 新たなスマートエネルギー設備等導入支援の補助金制度は運用されていない。 | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| <p>・財政対策プログラムを契機にスマートエネルギー設備等導入費補助金制度を廃止せざるを得なかったため、スマートエネルギー設備等の普及促進に係る周知啓発を行った。（環境展での啓発ポスターの掲示等）</p> <p>・ずしし環境会議と協力し、かんきょう講演会「家庭でできる地球温暖化対策」を開催した。（環境パートナーシップ推進事業）</p> | | <p>・スマートエネルギー設備等の導入促進に係る普及啓発を実施した。</p> <p>・財政対策プログラムを契機に既存補助金制度は廃止した。財政対策プログラムは終了したが、事業縮小に</p> | |

| | |
|--|------------------------------------|
| <p>・新たな試みとして、循環共生圏の構築をめざし、エネルギーサービスを提供しながら地域の経済循環を図る地域エネルギー会社の民間主導での設立を検討するための実現可能性調査を実施した。（平成31年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（環境省））</p> | <p>伴い、新たな補助金制度の検討ができていない状況である。</p> |
|--|------------------------------------|

(2) 再生可能エネルギーの利用促進

【目標】 <逗子市環境基本計画に定める 2022 年度（平成 34 年度）の目標>

～再生可能エネルギーの利用促進～

- 新たなスマートエネルギー設備等導入支援の補助金制度の利用件数が目標件数を達成している。（環境都市課・スマートエネルギー普及促進事業*）
- 市全体について、温室効果ガス排出量の削減目標の検討に取り組む。（環境都市課・温室効果ガス削減事業*）

*は逗子市総合計画に定めるリーディング事業です。

～再生可能エネルギーの利用促進～

【1】『スマートエネルギー普及促進事業』（リーディング事業）

- ◎内容は、「Ⅲ. 温室効果ガス排出の少ないまち （1）省エネルギーの推進 ～省エネルギーの推進～」に記載する「スマートエネルギー普及促進事業」と同一）

3-4.暮らしと景観に配慮したまち

(1) 良好な景観

【目標】 <逗子市環境基本計画に定める 2022 年度（平成 34 年度）の目標>

～良好な景観～

- 市内の各地域の特色に応じた景観配慮を行うとともに、景観形成重点地区 4 地区目の指定について調査し、地区を確定、景観計画を改正する。(まちづくり景観課・景観のまちづくり推進事業*)
- 景観資産の登録を行い、今後の景観行政の指標となるものを示す。(まちづくり景観課・景観のまちづくり推進事業*)
- 景観デザインコードを活用した啓発活動を 10 回以上行う。(まちづくり景観課・景観のまちづくり推進事業*)
- シンボルツリーの苗木の配布数が累計 60 件になっている。(緑政課・緑化推進事業)

*は逗子市総合計画に定めるリーディング事業です。

～良好な景観～

【1】『景観のまちづくり推進事業』（リーディング事業）

| | | | |
|--|--|---|----------|
| 事業名 | 景観のまちづくり推進事業 | 所管名 | まちづくり景観課 |
| 事業概要 | <p>目的：逗子の特性が活かされた良好な景観を守り、育て、つくり、将来に継承する。</p> <p>対象：市民及び事業者</p> <p>手段：逗子市景観条例と逗子市景観計画に定める景観形成重点地区について、各地域の特性をいかしたガイドライン及び景観条例の運用による景観のまちづくりの推進を図る。景観デザインコードを景観誘致のツールとして活用する。景観フォトコンテスト等のイベントによる景観資産の登録など、景観についての啓発活動を行い、多くの市民の景観についての意識を高める。</p> | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| <p>○景観形成重点地区4地区目の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗い出し ・決定、景観資産の追加登録等 ・ガイドライン整備 <p>○景観デザインコードの活用</p> <p>○（仮称）景観計画推進プランの策定</p> | | <p>○景観形成重点地区4地区目の決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドライン確定、周知 <p>○景観計画の改定</p> <p>○景観資産の追加登録</p> <p>○（仮称）景観計画推進プランの推進</p> | |
| 目標【2018年（平成30年）度】 | | 現状【2013年（平成25年）度末】 | |
| 景観形成重点地区4地区目を決定している。 | | 重点地区3地区指定済 | |
| 目標の達成状況【2018（平成30）年度末】 | | | |
| <p>②4地区目の景観形成重点地区は、より効果的な景観形成手法を検討しているため、予定より時間を要している。</p> <p>③景観資産の追加登録については、新たに表彰制度の手法を取り入れることによる普及・啓発を優先して検討している。</p> | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| 景観形成重点地区4地区目のガイドラインを作成し、運用を開始している。 | | 4地区目の景観形成重点地区は、より効果的な景観形成手法を検討しているため、予定より時間を要している。 | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| ①逗子高校の学生を対象として、まちなみデザイン逗子を活用した模型製作学習を行い、景観づく | | 表彰制度を進めることによって、意識啓発を行おうとしている。（4地区目 | |

| | |
|---|--|
| <p>りの普及・啓発を行った。</p> <p>②旧脇村邸の一般公開及びそれに併せた景観まち歩きを行い、歴史的景観資源の活用を図った。</p> <p>③景観審議会を3回開催し、景観形成の手法等について検討を行った。</p> <p>④より身近な景観にスポットをあてるため、景観資産の追加登録の代替となる手法として、表彰制度の制度設計を行った。</p> | <p>の景観形成重点地区はより効果的な景観形成手法を検討しているため、予定より時間を要している)</p> |
|---|--|

【2】『緑化推進事業』

◎内容は、「I 自然を大切にすまち（1）緑 ～緑地の保全～ 」に記載する「緑化推進事業」と同一)

(2) 暮らしのための基盤整備

【目標】 <逗子市環境基本計画に定める 2022 年度（平成 34 年度）の目標>

～暮らしのための基盤整備～

- 逗子市交通バリアフリー基本構想に基づき市内道路の整備に取り組み、14 か所整備済みとなっている。（都市整備課・やさしい道づくり事業）
- 狭あい道路の整備を進め、2,848メートル（延長）整備済みとなっている。（都市整備課・狭あい道路整備事業）
- 急傾斜地崩壊危険区域の整備を進め、60 か所が整備済みとなっている。（都市整備課・急傾斜地崩壊対策事業）

～暮らしのための基盤整備～

【1】『やさしい道づくり事業』

| 事業名 | やさしい道づくり事業 | 所管名 | 都市整備課 |
|--|---|-------------------|-------|
| 事業概要 | 目的：歩行者にとって安全で快適な歩道空間の創出を進める 対象：歩道利用者 手段：逗子市が管理する歩道の構造を計画的にインターロッキングブロック等にする | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | | |
| ○歩道整備工事を実施することにより、凹凸による水たまりや躓き等の原因を解消し、逗子ハイランド地区の歩行者の安全と円滑化を図る。 | ○歩道整備工事を実施することにより、凹凸による水たまりや躓き等の原因を解消し、披露山庭園住宅地区内の歩行者の安全と円滑化を図る。 | | |
| 目標【2018（平成30）年度】 | | 現状【2014（平成26）年度末】 | |
| ○平成22年度より継続事業として行っている逗子ハイランド内の歩道整備工事を完了している。 ○逗子市交通バリアフリー基本構想に基づき市内道路の整備に取り組み、13か所整備済みとなっている。 | | 完了していない。 | |
| 目標の達成状況【2018（平成30）年度末】 | | | |
| 逗子ハイランド地区の歩道のインターロッキングブロック化の合計L=4481.55m、逗子市交通バリアフリー基本構想に基づく整備12箇所と平成30年度は進捗率が上がらなかった。 | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| ○披露山庭園住宅内の歩道整備工事を完了している。 | | ○逗子ハイランド地区の歩道の | |

| | |
|---|---|
| <p>○逗子市交通バリアフリー基本構想に基づき市内道路の整備に取り組み、17か所整備済みとなっている。</p> | <p>インターロッキングブロック化 L=4481.55m ○逗子市交通バリアフリー基本構想に基づく市内の道路の整備 12箇所（2017（平成29）年度以降事業休止中）</p> |
| <p>2019（平成31・令和元）年度の実績内容</p> | <p>目標の達成状況 【2019（平成31・令和元）年度末】</p> |
| <p>逗子ハイランド地区の歩道のインターロッキングブロック化 L=4,481.55m、逗子市交通バリアフリー基本構想に基づく市内の道路道路整備12箇所について、事業休止に伴い進捗率は上がらなかった。</p> | <p>逗子ハイランド地区の歩道のインターロッキングブロック化 L=4,481.55m、逗子市交通バリアフリー基本構想に基づく市内の道路道路整備12箇所について、事業休止に伴い進捗率は上がらなかった。</p> |

【2】『狭あい道路整備事業』

| | | | |
|---|---|--|-------|
| 事業名 | 狭あい道路整備事業 | 所管名 | 都市整備課 |
| 事業概要 | 目的：良好な住環境や災害時の避難路を確保し、生活環境の向上を図る。 対象：道路幅員4m未満の市道 手段：家屋の新築等に伴う道路後退部を寄付により拡幅していく。 | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| ○市道との境界確定にかかる測量委託を行う。 ○寄付のあった道路後退部分に係る物件の補償を行う。 | | ○市道との境界確定にかかる測量委託を行う。 ○寄付のあった道路後退部分に係る物件の補償を行う。 | |
| 目標【2018（平成30）年度】 | | 現状【2014（平成26）年度末】 | |
| 市道の狭あい道路の割合が、65パーセント以下になっている | | 完了していない(65.58%)。 | |
| 目標の達成状況 【2018（平成30）年度末】 | | | |
| 狭あい道路の延長 110.153km(65.52%) | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| 市道の狭あい道路の割合が、65パーセント以下になっている | | 完了していない(65.53%)。 | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| 建築基準法による道路後退部分を市道として寄附を受けるための測量及び境界確定業務を委託した。 ・4件62mの狭あい道路の寄付を受けた。 ・4メートル道路としての拡幅はなかった。 | | 狭あい道路の延長 約110.153km(65.52%) | |

【3】『急傾斜地崩壊対策事業』

| | | | |
|---|---|---|-------|
| 事業名 | 急傾斜地崩壊対策事業 | 所管名 | 都市整備課 |
| 事業概要 | <p>目的：急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律に基づき、がけ崩れ防止施設の整備を進める。市民の生命財産を守る。</p> <p>対象：逗子市内の急傾斜地崩壊危険区域指定基準に該当する公有地及び民有地。</p> <p>手段：関係機関と連携し、急傾斜地の区域指定及び整備を進める。</p> | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| <p>○区域指定に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民による指定要望 ・市の意見等により神奈川県が指定 <p>○工事実施基準を満たす区域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県による工事 | | <p>○区域指定に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民による指定要望 ・市の意見等により神奈川県が指定 <p>○工事実施基準を満たす区域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県による工事 | |
| 目標【2018（平成30）年度】 | | 現状【2014（平成26）年度末】 | |
| 急傾斜地崩壊危険区域の整備を進め、60か所が整備済みとなっている。 | | 完了していない（59箇所整備済み）。 | |
| 目標の達成状況 【2018（平成30）年度末】 | | | |
| 整備済み箇所 60箇所 | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| 急傾斜地崩壊危険区域の整備を進め、60か所が整備済みとなっている。 | | 完了（60か所整備済み）。 | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況 【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・急傾斜地崩壊危険区域の指定箇所 62箇所 ・急傾斜地崩壊危険防止工事整備済み箇所 60箇所 | | 整備済み箇所 60箇所 | |

(3) 生活環境の諸問題

【目標】 <逗子市環境基本計画に定める 2022 年度（平成 34 年度）の目標>

～生活環境の諸問題～

- 大気中の浮遊物質、水質汚濁の状況について関係法令の基準を下回る。(資源循環課・公害防止啓発事業、公害調査測定事業)
- 「歩行者と自転車を優先するまち」のアクションプランに基づき、重点課題に取り組む。(環境都市課・歩行者と自転車のまち推進事業*)

*は逗子市総合計画に定めるリーディング事業です。

～生活環境の諸問題～

【1】『公害防止啓発事業』

| | | | |
|---|---|--|-------|
| 事業名 | 公害防止啓発事業 | 所管名 | 資源循環課 |
| 事業概要 | 目的：公害のない、良好な住環境の形成 対象：市民等 手段：啓発活動 | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| ○光化学注意報等の発令時の対応 ・県から発令が出た際、速やかに関係機関に連絡を行い、被害を未然に防ぐ ○深夜花火禁止条例に係る啓発等 ・6月中旬から9月上旬にかけて海岸付近の2か所に啓発の横断幕を掲げる ・夏休み期間の金曜土曜深夜から早朝にかけて警備及び啓発のための巡回を行う ○公害防止のための啓発活動（随時） | | ○光化学注意報等の発令時の対応 ・県から発令が出た際、速やかに関係機関に連絡を行い、被害を未然に防ぐ ○深夜花火禁止条例に係る啓発等 ・6月中旬から9月上旬にかけて海岸付近の2か所に啓発の横断幕を掲げる ・夏休み期間の金、土曜日深夜から早朝にかけて警備及び啓発のための巡回を行う ○公害防止のための啓発活動（随時） | |
| 目標【2018（平成30）年度】 | | 現状【2014（平成26）年度末】 | |
| 関係法令の基準を下回っている | | 関係法令の基準を下回っている | |
| 目標の達成状況【2018（平成30）年度末】 | | | |
| 目標を達成している。 | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| 関係法令の基準を下回っている | | 関係法令の基準を下回っている | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| ○光化学スモッグ注意報等の発令時の対応 ・県実施伝達訓練1回 ・注意報発令：1回 ○深夜花火禁止条例に係る啓発等 ・街頭啓発：1日間（JR逗子駅前） ・広報掲示板への掲示、花火販売店舗へのちらし掲示依頼及び横断幕の設置（逗子海岸中央入口、渚橋） | | 目標を達成している。 | |

【2】『公害調査測定事業』

| | | | |
|---|--|---|-------|
| 事業名 | 公害調査測定事業 | 所管名 | 資源循環課 |
| 事業概要 | 目的：公害のない、良好な生活環境の形成 対象：公害の発生源 手段：届出の受付、立入・測定等の調査、自動車騒音常時監視業務 | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| ○自動車騒音常時監視業務（騒音規制法の規定による事務） ・毎年実施 ○公害発生時の調査・改善（随時） ○公害法規に係る許認可事務（随時） | | ○自動車騒音常時監視業務（騒音規制法の規定による事務） ・毎年実施 ○公害発生時の調査・改善（随時） ○公害法規に係る許認可事務（随時） | |
| 目標【2018（平成30）年度】 | | 現状【2014（平成26）年度末】 | |
| 関係法令の基準を下回っている | | 関係法令の基準を下回っている | |
| 目標の達成状況【2018（平成30）年度末】 | | | |
| 目標を達成している。 | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| 関係法令の基準を下回っている | | 関係法令の基準を下回っている | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| ○自動車騒音常時監視業務（毎年度実施） ○公害事案の処理：35件（現地出動26件） ○公害法規に係る許認可・届出事務 ・県条例（指定事業所）に係る経由事務：4件 ・特定建設作業実施届：騒音15件、振動10件 | | 目標を達成している。 | |

【3】『歩行者と自転車を優先するまち推進事業』（リーディング事業）

| 事業名 | 歩行者と自転車を優先するまち推進事業 | 所管名 | 環境都市課 |
|---|---|---|-------|
| 事業概要 | <p>目的：安全で快適な歩行空間を創出する。適切な自転車利用ができる環境づくり。公共交通アクセス手段の向上。自動車に頼りすぎない仕組みづくりの実現。</p> <p>対象：歩行者、自転車、公共交通、自動車など市内の道路を利用する者及び市民、警察、行政、商店会、交通事業者などの関係機関等</p> <p>手段：歩行空間における支障物の解消、歩行者優先の周知・啓発活動、楽しんで歩ける環境づくり。自転車利用環境の向上、ルール・マナーの効果的な周知と啓発、自転車を楽しむ風土づくり。公共交通の利用促進。車の利用方法の見直し。地域主体のコミュニティバス等の導入に係る研究及び運行に向けた支援。</p> | | |
| 主な事業内容 | | | |
| 2015（平成27）年度～2018（平成30）年度 | | 2019（平成31）年度～2022（平成34）年度 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○JR逗子駅前周辺地区重点プログラムの実施 ○自転車利用のルール、マナーの徹底した周知 ○歩行者と自転車のまちづくりニュース全戸配布 ○カーフリーデー※の実施（共催） ○地域主体のコミュニティバス等の研究・導入手引きの検討 | | <ul style="list-style-type: none"> ○JR逗子駅前周辺地区重点プログラムの実施 ○自転車利用のルール、マナーの徹底した周知 ○歩行者と自転車のまちづくりニュース全戸配布 ○カーフリーデーの実施（共催） ○地域主体のコミュニティバス等の運行に向けた支援 | |
| 目標【2018（平成30）年度】 | | 現状【2014（平成26）年度末】 | |
| 限られた道路空間における、歩行者・自転車・自動車の共存方法の具体的な方策が示されている。 | | アクションプランを策定した。 | |
| 目標の達成状況 | | | |
| 【2018（平成30）年度末】 | | | |
| 事業者との意見交換等を行ったものの、財政対策プログラムで予算なしによりカーフリーデーは実施できず、歩行者・自転車・自動車の共存方法の具体的な方策が示せなかった。 | | | |
| 目標【2022（平成34）年度】 | | 現状【2017（平成29）年度末】 | |
| 限られた道路空間における、歩行者・自転車・自動車の共存の方策が実施されている。 | | アクションプランを策定した。 | |
| 2019（平成31・令和元）年度の実績内容 | | 目標の達成状況 | |
| 【2019（平成31・令和元）年度末】 | | 【2019（平成31・令和元）年度末】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・周知ステッカーをイベントや環境都市課窓口で配布（460枚） ・令和元年10月施行の神奈川県条例により義務化された、自 | | 「歩行者と自転車を優先するまち」ワークショップは実施でき | |

転車損害賠償責任保険等について、広報ずしの掲載、市内掲示板の掲示（2回）及びポスターの掲示（2回）

- ・経済観光課主体で、令和元年7月18日からシェアサイクル実証実験を開始。また、JR逗子駅西駐輪場前にサイクルポート（シェアサイクル専用駐輪場）を設置

- ・地域主体の新たな公共交通導入に向けて、先進事例調査や関係機関、自治会等との協議を行い、令和2年度にデマンド型乗合タクシーの実証実験を実施するための準備を行った。

ず、歩行者・自転車の共存方法の具体的な方策が示せなかった。

※カーフリーデー：一日一定エリア内へのマイカーの通行規制を行い、市民が車のない都市環境を体験することで、街での車の使い方、交通行動を考える機会にしようというもの。

4. 市民活動の促進と推進体制について

市民一人ひとりが環境に配慮した行動を広げていくためには、市とともに逗子市環境基本計画を推進している「ずしし環境会議」を中心に、環境に関心がある人、既に環境活動を行っている人やグループ、それにこれまであまり取り組んでこなかった市民、事業者等も加わって、ネットワーク化を図り、協力して取り組んでいくことが必要です。

市では、今後も、「ずしし環境会議」をはじめとする多くの市民団体等の活動を支援し、また、「ずしし環境会議」をはじめとする様々な市民団体等が連携し、取り組んでいくための体制づくりを進めていきます。

また、市の次世代を担う子どもたちへの取り組みも重要です。子どもたちに直接伝えることのできる出前授業をはじめとする環境教育への支援や、環境の大切さを子どもたちに伝えていく主体となる様々な世代が環境について知識を深めることができる体制づくりにも取り組んでいきます。

4-1.環境月間について

(1) 逗子市環境展

逗子市環境基本計画の目的を推進し、市民の環境問題に係る意識の向上を図るため、6月の環境月間にあわせ、市の環境政策や、一般公募団体による環境に関する取組の展示をしました。

【1】期 間 令和元年6月3日（月）～6月9日（日）（4日（火）は休館日）
10：00～15：00

【2】会 場 逗子文化プラザホール ギャラリー

【3】展示内容

- ①市の環境政策の展示
- ②一般公募による環境への取組の展示
 - ・生活協同組合ユーコープ（湘南2エリア会）
 - ・鋳金工業株式会社
 - ・逗子メダカの学校
 - ・東京ガス（株）神奈川西支店
 - ・メルテック株式会社



(2) ずしし環境会議展

逗子市環境基本計画・行動等指針の目的を推進し、市民の環境問題についての意識向上を図るため、6月の環境月間にあわせ、市とともに環境基本計画を推進するパートナーである「ずしし環境会議」が活動内容の展示やワークショップを実施しました。

- 【1】期 間 令和元年6月1日(土) 9:00~12:00、
6月8日(土) ~ 6月9日(日) 10:00~15:00
- 【2】会 場 逗子市民交流センター及び
逗子文化プラザホールギャラリー・さざなみホール
- 【3】実施内容 まちなみと緑の創造部会、二酸化炭素削減部会、ごみ問題部会の部会ごとに、パネル展示やワークショップ、映画上映を実施



4-2.かんきょう講演会について

逗子市環境基本計画の推進を目的として、「ずしし環境会議」の企画・立案により、講演会を行いました。

それぞれの分野の学識経験者等を講師として講演会を開催することで、市民の意識啓発を通じて、逗子市環境基本計画の推進を図るものです。

「家庭でできる地球温暖化対策 ～化石燃料燃焼等による温度上昇とその影響～」

(講 師) 株式会社住環境計画研究所 取締役研究所長 鶴崎 敬大氏

(日 時) 令和2年2月15日(土) 14:00~16:00

(参加者) 36人

(場 所) 市民交流センター 第2・3会議室

4-3.出前授業について

「ずしし環境会議」が、市内の小中学校等に出向いて、「まちなみと緑の創造」「ごみ問題」「二酸化炭素削減」という3つのテーマに沿った「出前授業」を行いました。

| 実施日 | 対象 | 部会 | 内容 |
|--------------------------------------|-------------------------|---------|----------------------|
| 令和2年1月16日 | 沼間中学校2年生 (2クラス 62名) | 二酸化炭素削減 | 地球温暖化の現状と対策 |
| 令和2年2月12、13日 | 逗子小学校5年生 (4クラス 135名) | 二酸化炭素削減 | 楽しく実験 見つけよう私たちにできるエコ |
| 令和2年2月25～27日 | 久木中学校3年生 (5クラス 162名) | 二酸化炭素削減 | 地球温暖化の現状と対策 |
| 令和2年3月3日 (新型コロナウイルス感染症に伴う休校のため中止) | 逗子中学校3年生 (3クラス 110名) | 二酸化炭素削減 | 地球温暖化の現状と対策 |

*その他、7月に教員向け講習会で出前授業の紹介を実施。(二酸化炭素削減部会)

5. 環境マネジメントシステムについて

本市は、平成13年2月に国際規格ISO14001の認証を取得し、事務事業等での環境負荷への低減を図ってきました。職員の間には環境に対する意識が浸透し、一定の効果が得られたことから、平成21年2月27日に認証を返上しました。

平成21年度からは、逗子市独自の環境マネジメントシステムを運用し、市全体で取り組む目標と、各課の職務に応じた目標を設定し行動しています。行動した後は点検し、見直しをすることで、環境負荷の低減を図っています。(平成29年度～令和元年度は、制度見直しにより休止中)

6. 地球温暖化対策実行計画の推進について

1. 第二次逗子市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）について

(1) 目標

平成25年度を基準年度とし、計画期間(平成27年度～平成34年度)において本市の事務・事業から排出される温室効果ガス総排出量を、毎年度1%削減することを目標として定めています。(平成34年度には、基準年度に比べ約7.73%削減することになります)

(2) 平成25年度（基準年度）と平成31年度の比較

平成31年度における温室効果ガスの総排出量(二酸化炭素換算排出量)は11,378t-CO₂でした。平成25年度（基準年度）12,088t-CO₂からは、5.87%削減となりました。

| 項目 | (基準年度) | 平成30年度 | 平成31(令和 | 基準年度比 |
|---|-------------------------|-------------------------|-------------------------|--------|
| | 平成25年度 | | 元)年度 | |
| エネルギー起源の温室効果ガス排出量(電気、ガス、灯油、公用車でのガソリンなど) | 7,828t-CO ₂ | 7,179t-CO ₂ | 7,335t-CO ₂ | 6%減 |
| 一般廃棄物の焼却に伴う温室効果ガス排出量 | 4,260t-CO ₂ | 4,555t-CO ₂ | 4,043t-CO ₂ | 5%減 |
| 合計 | 12,088t-CO ₂ | 11,734t-CO ₂ | 11,378t-CO ₂ | 5.87%減 |

2. 逗子市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について

（1）目標

計画の期間は、「第二次逗子市環境基本計画」との整合性を考慮し、2017（平成 29）年度から 2038（平成 50）年度までの 22 年間とし、本市全域から排出される温室効果ガスを、2038（平成 50）年度において、2013（平成 25）年度比で 27%削減することを目標として定めています。

（2）平成 25 年度（基準年度）と平成 28 年度の比較

平成 28 年度における市内から排出される温室効果ガスの総排出量（二酸化炭素換算排出量）は 204 千 t-CO₂ でした。平成 25 年度（基準年度）236 千 t-CO₂ からは、13.6%削減となりました。

※ 3 か年度以前の結果が公表される、環境省の地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）策定支援サイトの現況推計値を用いて集計。小数点以下の処理により、各項目の和と合計が合致しないことがあります。

| 項目 | （基準年度） 平成 25 年度 | 平成 27 年度 | 平成 28 年度 | 基準年度比 |
|---------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|--------|
| 産業部門 | 4 千 t-CO ₂ | 4 千 t-CO ₂ | 3 千 t-CO ₂ | 25%減 |
| 家庭部門 | 81 千 t-CO ₂ | 78 千 t-CO ₂ | 76 千 t-CO ₂ | 6%増 |
| 業務その他部門 | 95 千 t-CO ₂ | 76 千 t-CO ₂ | 72 千 t-CO ₂ | 24%減 |
| 運輸部門 | 52 千 t-CO ₂ | 50 千 t-CO ₂ | 49 千 t-CO ₂ | 6%減 |
| 廃棄物分野 | 4 千 t-CO ₂ | 5 千 t-CO ₂ | 5 千 t-CO ₂ | 25%増 |
| 合計 | 236 千 t-CO ₂ | 212 千 t-CO ₂ | 204 千 t-CO ₂ | 13.6%減 |